



高崎山通信

2024. 夏号

高崎山の夏

ニホンザルは体温が38度くらいあるので、夏の暑さが苦手なようです。汗腺が少なく汗をかいて体温を下げるのがほとんどできないため、気温が上がると冷たい岩の上で体を冷やしたり、日陰の風通しの良い場所を求めて移動し、ほとんどの時間を寝て過ごしています。

そんなサルたちのために、高崎山では毎年、水遊びができるプールを準備しています。

普段は水飲み場として常に水を流している池ですが…池の排水バルブを閉じるとプールに変身します！

子ザルたちにとっては、待ちに待ったプール開きです。最初は、冷たい水に警戒しながら、ゆっくりと手や足を浸けますが、慣れてくると高い場所から飛びこんだり、潜って泳いだりするようになります。

サルたちが楽しそうにプールで泳ぐ姿を、ぜひ見に来てください。



プール開設期間
7月13日(土)～
8月31日(土)



赤ちゃんザルの成長過程と、 第1号赤ちゃんザル「デコピン」の 成長記録について

高崎山の出産シーズンは5月から8月頃です。2024年4月21日の16時20分に、今年の第1号赤ちゃんザルをサル寄せ場で発見しました。この日は雨でしたが、赤ちゃんザルは母ザルにしっかり抱かれていたことで、あまり濡れていませんでした。

高崎山では、毎年最初に産まれた赤ちゃんザルの名前を、事前に一般公募します。今年はその中からデコピンと名付けられました。母ザルはアキラといいます。赤ちゃんザルは、生まれてすぐには歩けませんが、生後1週間くらいから歩行練習をするようになります。

ニホンザルの歩行練習は、まず、母ザルが赤ちゃんザルを地面にそっと置き、その後、10～20cmほど離れて座ります。そして、顔を覗き込みながら口をパクパクさせて「こちらへいらっしゃい」と、促します。すると、赤ちゃんザルは母ザルの元へ行こうと、小さな手足で地面をつかみ一歩一歩向かいます。母ザルは、そんな赤ちゃんザルの様子をじっと見守ります。はじめは、身体を支えるだけで精一杯の赤ちゃんザルですが、何度も歩行練習を重ねることで、自分の力で歩けるようになります。

デコピンが歩行練習を始めたのは、生まれて6日目の4月26日でした。この日は歩くというよりは、ハイハイをするように、一生懸命自力で身体を支えていました。



生後1カ月を過ぎた頃から、上手に歩けるようになったこともあり、いろいろなものに興味を示すようになりました。雨の日には、水たまりで遊んだり、晴れの日には園内の鎖にぶら下がったり鎖を口に咥えてみたりと、目に入ったものは何でも触りたくてしょうがないようです。

そして、5月30日ついにデコピンが保育園デビューを果たしました。高崎山のサル寄せ場には「おさるの保育園」があり、生後1カ月を過ぎた赤ちゃんザルは、この保育園で同じ年に生まれた赤ちゃんザルたちと一緒に遊ぶようになります。デコピンにとってはこの日はまだ「慣らし保育」だったようで、ほんの数分だけジャングルジムで遊んだ後、母ザルのアキラと一緒に保育園を離れていきました。デコピンが遊ぶ間、アキラは少し離れた場所で、デコピンを見守っていました。

赤ちゃんザルは、しばらくは母ザルの母乳で育ちますが、少しずつ固形物を口にするようになり、徐々に大人と同じ食べ物に慣れていきます。デコピンもアキラのお乳を飲みながら、すくすく成長しています。これからも、デコピンを含め赤ちゃんザルたちの成長を、見守っていきます。



Miracle

B群「ミラクル」



左からミラクル・2023年生まれの弟・2021年生まれの弟

B群にミラクルという2018年生まれのメスザル(人間の年齢で16才ほど)がいます。

ミラクルは、生まれて間もなく、両足を全く動かすことができなくなり(原因は不明)、両手だけで地面を這って動いていました。

このような状況でもミラクルは、おさるの保育園のジャングルジムに腕の力だけで登って同級生と遊ぶなど、両手を上手に使い元気に過ごしていました。

ところが、1カ月ほど経った頃から、全く動かなかった両足がわずかに動くようになったのです。その後も、日に日に両足の可動域が広がり、指の関節もしっかりと動くほど回復しました。このような奇跡的なできごとがあったことからミラクルと名付けられました。

2021年生まれの我が子(オス)と同じ年に生まれた迷子の赤ちゃんザル(オス)の2頭を同時に育て話題となったミラクルの母マツバは、2023年6月4日オスザルを出産しました。

ミラクルは3頭の弟たちのお姉さんになり、マツバをサポートするかのようになり、弟たちの面倒をよく見るようになりました。

ところが、寒さが厳しくなった12月中旬、マツバ親子の姿がサル寄せ場から消えてしまったのです。

年が明けた2024年1月2日、久しぶりにミラクルを見つけた私たちは、安堵と同時に異変に気付きました。ミラクルに抱きしめられた2023年生まれの一番下の弟と2021年生まれのともと迷子の弟はいましたが、マツバと2021年生まれのもう1頭の弟(マツバの実子)の姿が見当たりません。更に驚いたことに、ミラクルに抱かれていた2023年生まれの弟は、母ザル恋しさからか、ミラクルの胸にしがみつきお乳をくわえていました。まだ出産経験のないミラクルの乳は、弟に吸われ伸びていました。

2024年5月下旬、マツバが姿を見せなくなってから5カ月が経ちました。ミラクルは相変わらず弟たちの面倒を毎日見ている。

奇跡的に繋がった小さな命を、今では母マツバに代わってミラクルが引き継いでいます。いずれは巣立っていく弟たちのために、毎日献身的に弟の面倒を見るミラクルを、私たちはこれからも見守っていきたいと思います。

祝!!

敬老ザル

高崎山のサルたちの寿命は、長くて20年から25年といわれています。今回は、現在30年以上生きていられる長寿ザルを紹介します。



B群 ナンチュウ おじいちゃん

推定35才。人間で言うと100才くらい
右目は、白内障のように白く濁っています。毛もかなり薄く白くなり、歩く姿もゆっくりです。お友達のメスザル、シキラレやウオッカに毛づくろいをしてもらい、B群で穏やかに暮らしています。



B群 コンヤク おばあちゃん

33才。人間で言うと100才くらい
昔から変わらず綺麗なおばあちゃんザルです。出産頭数は12頭と多く、孫やひ孫も増え、昨年の第1号赤ちゃんザル、ペッパーミルや今年の第1号赤ちゃんザル、デコピンは、コンヤクの子孫です。



B群 ヒトエ おばあちゃん

32才。人間で言うと95才くらい
上位のオスザルと仲良かった割には控えめな性格で、その穏やかさが顔に出ています。元々毛並みは、白っぽく(サルも高齢になると毛が白くなります)娘のヒトミとよく毛づくろいをしていて幸せそうです。



B群 サヤカ おばあちゃん

31才。人間で言うと90才くらい
生まれつき両腕が曲がり2足歩行をするサヤカ。大きなハンディを抱えながら出産子育てをし、30年以上生きていられる奇跡です。



C群 マミ おばあちゃん

30才。人間で言うと90才くらい
C群で唯一30才越えのサルです。母ザルの名前はココロギと言い、虫の名前がついている家系ですが、当時のスタッフのお気に入りのサルで、マミと名付けられました。娘ザルには、ムメ・モヤがいます。(高崎山では親子は関連した名前を付けています。)

おじいちゃん・おばあちゃんザルたちには、いつまでも元気でいてほしいものです。

※令和6年9月1日以降の年齢で表記しています。(毎年、9月1日に年齢を+1才して、戸籍簿を更新しています)

スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、YouTubeで高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。



〒870-0802 大分市神崎3098-1
TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500
E-mail info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/

大分市内の小学生・中学生は入園無料です。学生証などを見せて入園してください。